

ニッセンケン分室「思いつきラボ」No.115

## 震度 4 以上の地震が増えています…



2018年6月18日に大阪北部で震度6弱の地震が発生しました。犠牲者ができるほどの大きな災害になってしまいました。いまだに避難生活をおくっている方たちもいらっしやいます。震度6弱ですと2016年12月28日茨城県北部で発生した地震以来となります。2016年はあの熊本地方の大地震があった年で4月14日～16日の3日間で震度6弱以上の地震だけでも熊本地方で震度7の2回を含めて7回も発生しているのです。大阪北部

の一回だけの地震でも大騒ぎになっていることを考えれば2016年の熊本地方の地震は相当なものだったことがあらためて思い知らされます。

今年の4月頃から震度4以上の地震が多くなっているのは気にはなっていたのですが大阪北部の地震の前日の6月17日に群馬県南部で震度5弱が前々日の16日には千葉県北東部で震度4を観測していて3日連続で震度4以上を記録したことになりました。群馬県や大阪府は発生予測が低い地域だったので正直なところ驚いています。地震予測の確率は低いとはわかってはいるのですが・・・今回のことでもわかるように地震に関しては予想率が低くてもどこでも起こる可能性があるということになります。地震のメカニズムは現在の科学知識では解明できないということです。今年の地震4以上の発生は・・・

2018年	1月	3回	東京湾 浦賀湾 青森県東方沖
	2月	3回	長野県南部 豊後水道 福島県沖
	3月	3回	西表島付近 宮城県沖 茨城県沖
	4月	8回	島根県西部 5件 根室半島南東沖 2件 愛知県西部
	5月	7回	熊本県熊本地方 岩手県内陸北部 長野県北部 2件 宮城県沖 千葉県北東部 釧路沖
	6月	7回	大隅半島東方沖 千葉県北東部 群馬県南部 大阪府北部 2件 広島県北部 千葉県南部

となっています。4月以降地震回数が増えているのがわかります。このところ4～5日に1回は震度4以上の地震が発生している計算になります。地震のメカニズムは解明できないものの数百年単位で同地域で同規模の地震が発生していることも事実ですので政府が発表している東南海トラフ地震が30年以内に起きる確率は有効と考えておいたほうがいいので油断のなきよう準備は必要です。南海 東南海 東海 首都圏などで確率が高いのは素直

に受け止めて さらにその他の地域で大地震が起きても不思議ではないという意識は持つておきましょう。内陸型地震が増えているのも気になるところです。最低限の準備は災害が起きた時にどこへ避難するかということイメージしておくことです。

## 地震調査委員会の発表

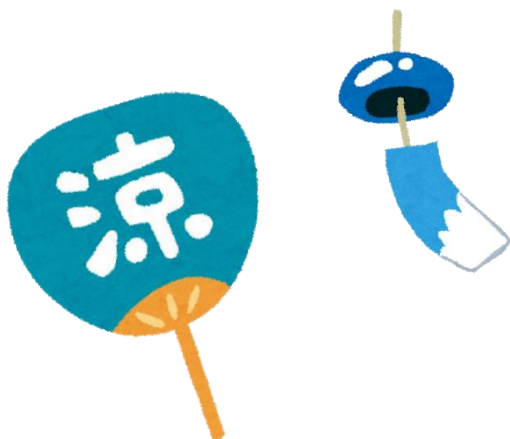
どこでいつ起きても不思議ではないと言いながらも 6月26日に政府の地震調査委員会が30年以内に震度6弱以上の巨大地震の危険性を示す「全国地震動予測地図 2018年版」を発表しました。それによれば千葉県千葉市が85% 神奈川県横浜市と茨城県水戸市が80%超え高知県高知市で75% 静岡県静岡市で70% 昨年12月に地震予測が高まったと訂正のあった北海道根室市で78% となっています。やはり数字を見てしまうと気にはなりません。ちなみに今回地震のあった大阪北部は3%以下で2016年の熊本で震度7が発生する確率は1%未満でした。あてにはならないけど気にはなる・・・人間の心理かも・・・。

世界的な災害のニュースも流れてきていますが とくに6月3日に噴火したグアテマラのフエゴ火山とアメリカ ハワイ島のキラウエア火山の噴火活動は大規模な被害をもたらしています。キラウエアの映像はよく流れてきていることありますが 凄(すさ)まじい勢いで自然の驚異を感じます。ハワイ島自体が海底火山の噴火でできた島でいまだに活動しつづけているのは分かっているのですが住人が定着しているので大きな被害になっています。現在でも島の形の変化が確認されていますが 噴火活動が収まったときにはどうなのか予想がつかないとのこと。キラウエア山の頂上にある火口が400m 陥没したという報道もありました。2ヶ月以上勢いが弱まらないことでいつまで続くかの予測もできないようです。火山噴火と大地震の関係性を唱える学者さんも多くいますので世界各地で火山活動が活発化していることも気になります。



6月に梅雨明け 大地震 大雨 竜巻 猛暑日の記録など聞き飽きた“異常気象”のニュースが連日のように流れています。対処法は個人で考えるしかありませんので無理のないよう気持ちだけでも“涼やか”にお過ごしください。

・・・「ああ～アツイ～」・・・(こら!!)



原稿担当：竹中 直(チヨク)